日本産科婦人科学会雑誌 ACTA OBST GYNAEC JPN Vol. 53, No. 1, pp.25—31, 2001 (平成13, 1月)

原 著

日本人閉経後女性におけるホルモン補充療法の 継続率に影響する因子の分析

奈良県立三室病院産婦人科

新谷 雅史 別府 謙一 原 裕子

Compliance of Hormone Replacement Therapy in Postmenopausal Women in Japan

Masafumi Shintani, Ken-ichi Beppu and Yuko Hara

Department of Obstetrics and Gynecology, Nara Prefectural Mimuro Hospital, Nara

概要 日本人閉経後女性に対するホルモン補充療法(hormone replacement therapy 以下 HRT と略)の継続率に影響を与える因子を解明するするために,1997年時に当科外来にて HRT を受けていた患者348名を3年後の2000年に調査した.その結果,1997年 HRT を受けていた患者348名中,3年間 HRTを継続している患者は275名,中止した患者は73名であり,継続率は79%であった.継続率を高める因子は,1) HRTを開始した年齢が若い,2) 投与する HRT の量を減量した,3) 腰椎骨密度の増加率が多い,4) HRT と ERT の種類では ERT,5) 医師の勧めにより,また6) 骨粗鬆症予防のためにHRTを始めた,であった.

逆に中止率を高める因子は、1)HRT を受けていると性器出血と乳房痛以外の副作用が困るであった。1)HRT 開始時の常用量と半量との違い、2)BMI、3)腰椎骨密度、4)6カ月以上 HRT を受けていたかどうか、5)更年期障害のために HRT を始めた、6)性器出血や乳房痛などの副作用は、HRT の継続に影響を与えなかった。

Abstract Objective: We studied to assess the compliance of hormone replacement therapy (HRT) in Japanese postmenopausal women.

Methods: We selected 348 postmenopausal women on estrogen therapy at Nara Prefectural Mimuro Hospital, Nara, Japan, in January 1997, and followed these women up for 3 years until January 2000.

Results: 275 women continued and 73 women dropped out. The continuating rate after 3 years was 79%. The factors in the higher continuation rate for HRT were, younger at the start of the therapy, the dose of estrogen was decreased during therapy, a larger percentage of change in lumbar bone mineral density (LBMD), HRT without progesterone (ERT), and the main reasons for starting estrogen therapy were the physician's recommendation and prevention of osteoporosis. The factors in the lower continuation rate for HRT were the side effects of HRT without vaginal bleeding and breast pain. The following factors were not significantly different in the continuation rate for HRT: dose of estrogen, BMI, LBMD at the start of therapy, the reason for starting therapy was vasomotor symptoms, and the side effects of HRT (i.e. vaginal bleeding and breast pain).

Conclusions: The continuation rate for HRT after 3 years was 79%. To increase compliance, the HRT physician Should explain to patients about HRT, and the dose of HRT should be adjusted according to the patient's condition during therapy.

Key words: Hormone replacement therapy (HRT) · Compliance · Low dose · Postmenopausal women

Table 1 Baseline characteristics and HRT method

Mean ± SD	Range
54.3 ± 7.5	31 ~ 80
52.6 ± 6.9	32 ~ 75
153.3 ± 5.1	138 ~ 169
22.4 ± 2.7	15.2 ~ 30.8
23.5 ± 18.1	1 ~ 87
1.000 ± 0.190	$0.349 \sim 1.605$
	54.3 ± 7.5 52.6 ± 6.9 153.3 ± 5.1 22.4 ± 2.7 23.5 ± 18.1

HRT method	Numbers of patients
CEE 0.625mg + MPA 2.5mg/day	127
CEE 0.625mg/day	106
CEE 0.31mg + MPA 2.5mg/day	41
CEE 0.31mg/day	41
E ₃ 1mg/day	21
TTS 2mg/2days	12
total	348

Table 2 Baseline characteristics
The results of the questionnaire for patients in 1997 (Multi-Answers)

Reasons for starting HRT Merits (Symptoms showing patients feel better)					t Concerns for HRT		
Menopausal symptoms	: 110	Menopausal symptoms	: 179	Bleeding	: 33	Cancer	: 70
Osteoporosis	: 187	Osteoporosis	: 91	Breast pain/tenderness	: 60	Side effects	: 48
Hyperlipidemia	: 17	Vaginovulval symptoms	: 58	Other symptoms	: 60	None	: 190
Vaginovulval symptoms	: 16	Hyperlipidemia	: 16	None	: 217		
Others	: 33	None	: 63				
Doctor's recommendation	: 157						

緒 言

女性ホルモンによるホルモン補充療法(hormone replacement therapy 以下 HRT と略)は骨密度の減少予防だけではなく増加¹¹をもたらし,骨折防止効果があると考えられている。また、HRTは Hot-flash などの更年期症状や腟外陰部症状,脂質代謝異常,アルツハイマー老人性痴呆症²¹にも有効であり、老人性白内障の予防にも効果があるとの報告³¹⁴がある。このように HRT には多くの利点がある一方、性器出血や乳房痛などの副作用その他の理由により HRT を中止する患者も多く認める。そこで、どのような患者背景が HRT の継続に関係しているかを調査する目的にて前方視的に以

下の検討を行った.

研究方法

I:対象

1997年1月当科にてHRTを受けていた患者はTable 1に示すとおり348名であり年齢54.3±7.5歳(平均値±標準偏差:最小31~最大80歳),体重52.6±6.9Kg(32~75Kg),身長153.3±5.1cm(138~169cm),BMI 22.4±2.7 Kg/m^2 (15.2~30.8 Kg/m^2),HRT の継続月数23.5±18.1月(1~87月),腰椎骨密度1.000±0.190 g/cm^2 (0.349~1.605 g/cm^2)の患者であった、1997年当時に受けていたHRT の種類はTable 1下段に示した。

1997年当時の患者からの調査(Table 2)より,

2001年1月 新谷他 27

HRT を始めた理由(以下複数回答あり)は「更年期 症状のため」110名,「骨粗鬆症の予防・治療のため」187名,「高脂血症の予防・治療のため」17名, 「腟外陰部症状のため」16名,「その他の理由」33名,「医師の勧めで始めた」157名であった.

HRT を始めてメリットと感じたことは「更年期 症状が軽快した」179名,「骨粗鬆症が良くなった」91名,「腟外陰部症状が良くなった」58名,「高脂血症が良くなった」16名,「メリットを感じない」63 名であった.

HRT を始めてデメリットと感じたことは「性器 出血が困る」33名,「乳房痛が困る」60名,「その他 の副作用が困る」60名,「困ることは全くなし」217 名であった.

HRT を受けていて心配なこととして「癌が心配」70名,「副作用が心配」48名,「心配なことはない」190名と回答していた患者であった.

Ⅱ:調査内容

1997年1月に HRT を受けていた患者348名を対象とし、2000年1月に再調査した. HRT を開始した年齢、1997年当時の HRT 継続月数、1997年当時の腰椎骨密度と3年間の腰椎骨密度の増加率、HRT の種類、3年間に投与量を減量したかの有無、HRT を始めた理由、HRT を始めてメリットと感じた事項、HRT を始めてデメリットと感じた事項、HRT を始めてがメリットと感じた事項、HRT を始めて心配な事項、等の種々の因子と3年後の HRT 継続の有無を解析した.

Ⅲ:HRT の用量と用語

酢酸メドロキシプロゲステロン(MPA)2.5mg/日を併用した場合は HRT と表示, 併用しなかった場合は ERT と表示した。CEE 0.625mg/日かパッチ型エストロゲン製剤を使用した場合は常用量HRT と表示した。CEE 0.31mg/日かエストリオール製剤を使用した場合は半量 HRT と表示した。

Ⅳ:統計方法

統計の検定は2段階に分けて行った。第1段階としては、連続変数は Mann-Whitney の U 検定、カテゴリー変数は χ^2 独立性の検定(p 値は Fisher の直接法)を施行した。第1段階にて p 値が0.1未満の因子を第2段階として、ロジステック回帰分析にて再度検定した。

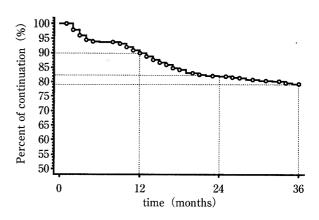


Fig. 1 Compliance of 348 postmenopausal women with HRT for 36 months

研究結果

I:HRT の継続率

348名の患者を2000年1月まで経過観察した結果(Fig. 1),1年後の継続率は90%であり,2年後の継続率は82%となり,3年後にはHRTを継続している患者は275名,中止した患者は73名であり,継続率は79%であった.

Ⅱ:継続患者と中止患者の比較

HRT 開始時の年齢は継続群53.7±7.1歳(平均値 ±標準偏差),中止群56.4±8.5歳となり,継続群が 有意(p=0.004)に若かった.体重,身長に有意差は なかったが,BMI は継続群22.2±2.7Kg/m²,中止群23.0±2.6Kg/m²となり,BMI の小さい患者の方が有意(p=0.024)に継続していた.1997年当時の HRT 継続月数は継続群24.5±18.4月,中止群19.5±16.1月と有意差(p=0.032)を認めた.HRT 開始時の腰椎骨密度には有意差を認めなかったが,3年間の腰椎骨密度の変化率は継続群7.88±9.93%,中止群4.86±8.98%(3年間補正値)と有意差(p=0.038)を認めた(Table 3).

HRT の投与量として、常用量投与の3年後継続率は77.6%、半量投与の継続率は82.5%であり差 (p=0.317)はなかった。HRT の継続率は75.0%、ERT の継続率は82.7%であり、やや ERT の継続率が高い傾向(p=0.087)を認めた。3年間に投与量を減量した患者の3年後継続率は95.9%、減量しなかった患者の継続率は74.5%であり、減量患者は有意(p<0.001)に継続率が高かった。1997年度の調査時に6カ月以上 HRT を受けていた患者(279)

Table 3 Baseline characteristics in continuation group and discontinuation group

Characteristics	Continuation group	Discontinuation group	Mann-Whitney
Age (years)	53.7 ± 7.1	56.4 ± 8.5	0.004
Duration of HRT (months)	24.5 ± 18.4	19.5 ± 16.1	0.032
Weight(Kg)	52.3 ± 6.9	53.5 ± 6.6	0.151
Height(cm)	153.5 ± 5.1	152.6 ± 5.1	0.165
$BMI(Kg/m^2)$	22.2 ± 2.7	23.0 ± 2.6	0.024
$LBMD(g/cm^2)$	0.998 ± 0.187	1.008 ± 0.203	0.607
$\Delta \text{ LBMD}(\%)$	7.88 ± 9.93	4.86 ± 8.98	0.038

values are the mean \pm SD

Δ LBMD (%) means a percent change in LBMD from the baseline.

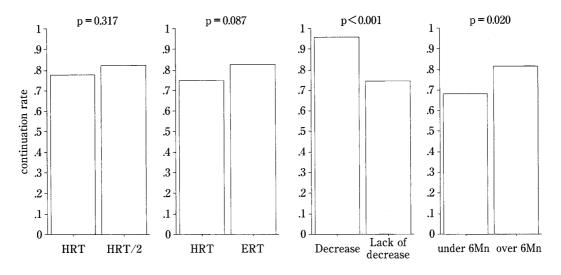


Fig. 2 Compliance in HRT methods

The analytic approach was a chi-square test for independence. p-values showed Fisher's exact probability test.

名)の3年後継続率は81.7%,6カ月以内の患者(69名)の継続率は68.1%であり、6カ月以上HRTを受けていた患者の方が有意(p=0.020)に継続率が高かった(Fig. 2).

HRT を始めた理由では、「更年期症状、高脂血症、 膣外陰部症状のため」に HRT を始めた患者とそうでない患者の間には継続率に差を認めなかったが、「骨粗鬆症(p=0.065)の予防のため」、「医師の勧め(p=0.085)にて」 HRT を始めた患者は継続率が高い傾向を認めた.

患者からみた HRT のメリットとしての、「更年期症状、骨粗鬆症、高脂血症、腟外陰部症状が良くなった」ことは継続率に影響を与えなかった。

患者からみた HRT のデメリットとしての、「性器出血や乳房痛が困る、デメリットと感じたこと

はなし」等は継続率に影響を与えなかったが、HRT を受けてから「性器出血、乳房痛以外の副作用が困る」と答えた患者は有意 (p=0.005) に中止していた。

HRT を受けている患者が不安と感じている項目としての、「癌(乳癌,子宮体癌)、副作用が不安、不安なし」等の項目は継続率に影響を与えなかった(Table 4).

Ⅲ:ロジステック回帰分析(Table 5)

HRT を継続しているか中止しているかについて前述 II:継続患者と中止患者の比較の検討で p値が0.1未満の項目について重み付けを行うためにロジステック回帰分析を施行した. ただし, 1997年当時の HRT 継続月数と1997年当時に 6 カ月以上 HRT を受けていたかどうかは, 独立した因子で

2001年 1 月 新谷他 29

Table 4 Correlation between the results of the questionnaire in 1997 and the continuation of HRT

Reasons for starting HRT Demerits (Symptoms showing that patients feel worse) Yes No Fisher's p Fisher's p Menopausal symptoms 74% 82% 0.119 Bleeding 85% 78% 0.503 Osteoporosis 83% 75% 0.065 Breast pain/tenderness 78% 79% 0.863 88% 0.542 Other symptoms Hyperlipidemia 79% 65% 82% 0.005 0.662 Vaginovulval symptoms 76% 79% None 81% 76% 0.225 Others 75% 79% 0.721 83% 0.085 Doctor's recommendation 75% Merits (Symptoms that patients feel better) Concerns for HRT Fisher's p Yes Fisher's p Yes No Menopausal symptoms 82% 76% 0.239 Cancer 84% 78% 0.254 Osteoporosis 79% 79% 0.999 Side effects 72% 81% 0.113 Vaginovulval symptoms 81% 79% 0.859 None 0.895 79% 78% 0.343 Hyperlipidemia 69% 80% None 82% 78% 0.595

Table 5 Logistic regression for HRT compliance

Characteristics	χ^2 value	Odds ratio	95%CI	p-value
Age	11.839	0.924	0.883-0.967	0.0006
Decrease in estrogen dose	9.543	7.091	2.046-24.568	0.0021
$\Delta LBMD(\%)$	8.101	1.059	1.018-1.101	0.0044
other side effects of HRT	6.932	0.359	0.168-0.766	0.0085
ERT	6.633	0.414	0.212-0.810	0.0101
Physicians recommendation	6.316	2.697	1.193-6.096	0.0121
Osteoporosis *	4.081	2.154	1.013-4.581	0.0434
BMI	2.079	0.918	0.818-1.031	0.1493
Duration > 6M	0.094	1.137	0.513-2.516	0.7589

Δ LBMD(%): the percent change in LBMD

side effects of HRT: side effects except vaginal bleeding and breast pain

はなく重複していると考えたので、p値がより少ない1997年当時に6カ月以上HRTを受けていたかどうかを項目として選択した.

HRTを継続しているか中止しているかを目的変数とし、連続変数(年齢、BMI、LBMD変化率)とカテゴリー変数(「HRTかERTか」、「1997年から2000年度調査時までに投与法を減量していた」、「1997年度の調査時に6カ月以上HRTを受けていた」、「骨粗鬆症の予防のため、また医師の勧めでHRTを開始した」、「HRTの性器出血と乳房痛以外の副作用が困る」)を説明変数としてロジステック回帰分析を行った。

その結果, HRT を継続する患者の説明変数とし

て有意な因子を関連の強い順番に表示すると、1: HRT を 開始 した 年齢(Odds ratio 0.924、(95%CI 0.883~0.967)、p=0.0006)が若いほど継続していた、2: HRT の投与量を減量した(Odds ratio 7.091、(95%CI 2.046~24.568)、p=0.0021)患者ほど継続していた、3: LBMD の増加率が多い(Odds ratio 1.059、(95%CI 1.018~1.101)、p=0.0044)患者ほど継続していた、4:副作用(性器出血と乳房痛以外)が困る(Odds ratio 0.359、(95%CI 0.168~0.766)、p=0.0085)と答えた患者ほど中止していた、5: HRT の種類では ERT(Odds ratio 0.414、(95%CI 0.212~0.810)、p=0.0101)の方が継続していた、6: 医師の勧めで HRT を始めた(Odds ratio

^{*:} as a reason to start HRT

2.697, (95%CI 1.193~6.096), p=0.0121) 患者は継 続率が高かった, 7: 骨粗鬆症のため HRT を始め た(Odds ratio 2.154, (95%CI 1.013~4.581), p= 0.0434) 患者は継続率が高かった, であった.

しかし、BMI (Odds ratio 0.918, (95%CI 0.818~1.031), p=0.1493), 1997年度の調査時に6カ月以上 HRT を受けていた(Odds ratio 1.137, (95%CI 0.513~2.516), p=0.7589)は有意な因子とはならなかった。

考 案

HRT の継続率に関しては外国では多くの報告 がある. HERS 研究⁵⁾として, Cardio-vascular disease 合併の平均年齢66.7歳の閉経後女性2,763人 を HRT 群 (1,380人) CEE 0.625mg/日と MPA 2.5 mg/日と Placebo 群 (1,383人)を平均4.1年間追跡 調査し、HRT の継続は1年後82%、3年後75%で あった. また PEPI 研究6では1年後の継続率は HRT 90%, ERT 82%, 3年後の継続率はHRT 78 %, ERT 56%であり, Archer et al.⁷⁾は1年後の継 続率は71.6~83.2%であったと報告した. しかし, これらの HRT 継続率は臨床研究における継続率 であり、一般臨床での HRT 継続率ではない。一般 臨床での HRT の継続率は、米国の Ettinger et al.® は1年後には50%である、デンマークにおいては Eiken and Kolthoff[®]は持続投与法の8年後の継続 率は46%, 間歇投与法の継続率は32%であり, 持 続投与法の継続が良い. ノルウェーにおいては Björn and Bäckström¹⁰⁾は3年後の継続率は75%で あると報告し、ドイツにおいては Dören and Schneider¹¹⁾は HRT の継続率は5年後76%,9年 後58%であると報告し、イスラエルにおいては Goldman et al.¹²⁾は1年後HRT 73.0%, ERT 80.5% であると報告し、トルコにおいては Karakoc and Erenus¹³⁾は4.5カ月後の HRT 継続率は71.2%であ り、北欧において高い継続率が報告されている。 また中止の主な原因は性器出血であると報告され ている.

本邦において石塚¹⁴⁾は 6 カ月後の累積ドロップアウト率は22%とし、米田ら¹⁵⁾は CEE 0.625mg/日と MPA 2.5mg/日の連続投与法31例の1年後の継続率は58.1%であり、隔日投与法の1年後の継続

率は83.8%であり、隔日投与法の方が性器出血や乳房痛によるドロップアウトが減少すると報告した。曽田ら¹⁶⁾は1994年の調査にてHRTの継続使用者は2年間で4割以下であったと報告した。本邦におけるHRTの大規模な3年間以上の長期間にわたる継続率に関しての前方視的な報告はいまだみられない。今回、我々のHRT継続調査における継続率は3年後に79%と日本においてはもちろん世界的にも高率であった。

HRTの継続率に最も強く影響する因子は今回 の検討でも Ettinger et al.8が報告したのと同様に 年齢であった. 次に影響を与えた因子は, 患者の 状態にあわせて女性ホルモンの投与量を減量した ことであった. このことは性器出血や乳房痛等の 副作用を防止し快適な HRT をめざし、半量 HRT を施行している当科の特徴がでた結果であると考 える. 腰椎骨密度の絶対値について継続群と中止 群とに差は認めなかったが、腰椎骨密度の増加率 には継続群が中止群に比し高かった. 中止群には 3年後の腰椎骨密度の測定値がない症例があり,3 年間換算値を使用したため完全な対応した測定値 の比較ではないが、腰椎骨密度が増加していると の説明が HRT 継続の動機付けになった可能性は 強いと考える、性器出血、乳房痛が起こっていな ければ他のマイナートラブルは継続率に大きな影 響を与えないと考えていたが性器出血、乳房痛以 外の副作用を訴えていた患者は有意に中止してい た. 曽田ら16 は子宮のない群(ERT)では継続率が 高いが,子宮のある群(HRT)は中止例が多く,中 止の主な原因は性器出血などのエストロゲン関連 の症状であったと報告した. 我々の今回の結果か らも,子宮のない患者に対する ERT の方が子宮の ある患者に対する HRT よりも継続率が高かった. しかし、性器出血が中止の大きな原因でないので あれば、MPA の直接的な影響、例えば鬱症状の悪 化を考えなければならない.

更年期障害のために HRT を受ける患者は更年期症状の改善と共に HRT を中止する¹²⁾といわれていたが、我々の検討は関連を認めなかった. Karakoç and Erenus¹³⁾や曽田ら¹⁶⁾は HRT は更年期障害や腟外陰部症状の改善のみを目指すのではな 2001年1月

く,骨粗鬆症や高脂血症などの予防を目的として 長期間の HRT が必要であることを HRT 服用患者 に理解させることが必要であると述べているが, 今回の検討でも 医師に HRT のメリットとデメ リットを説明された患者は有意に HRT を継続し ており,長期間の HRT が閉経後早期から必要であ るとの理解がなされたと考える.

臨床の現場での印象として6カ月間以上 HRT を続けた患者は以後も長期間 HRT を受けると考えていたが、χ²独立性の検定ではその傾向を認めるもののすべての因子を同時に検討したロジステック回帰分析では関連を認めなかった。

結 論

「年齢が若く」、3年間の治療中に患者の状態にあわせて「半量 HRT に変更」し、「骨密度が増加し」、HRT の種類としては「ERT」にて、「医師の勧めにて HRT を始め」、「骨粗鬆症の治療を目的」にした患者ほど HRT の継続率が高かった。「HRT を受けていると性器出血や乳房痛以外の副作用が困る」と答えた患者は HRT を有意に中止していた。「BMI」、HRT を「6カ月以上継続した」等の因子は HRT を継続するか中止するかの大きな要因ではなかった。

文 献

- 2. Fillit H, Weireb H, Cholst I, Luine V, McEwen B, Amador R, Zabriskie J. Observation in a preliminary open trial of estradiol therapy for senile dementia-Alzheimer's type. Psychoneuroendcrinology 1986; 11:337—345
- 3. Benitez del Castillo JM, Rio T, Garcia-Sanchez J. Effects of estrogen use on lens transmittance in postmenopausal women. Ophthalmology 1997; 104:970—973
- 4. Duncan G, Wormstone IM, Davies PD. The aging human lens: structure, growth, and physiological behaviour. Bri J Ophthalmology 1997; 81:818—823
- 5. Hulley S, Grady D, Bush T, Furberg C, Herringtin D, Riggs B, Vittinghoff E. Randomized trial of

- estrogen plus progestin for secondary prevention of coronary heart disease in postmenopausal women. JAMA 1998; 280: 605—613
- The writing Group for the PEPI Trial. Effects of hormone therapy on bone mineral density. Results from the postmenopausal Estrogen/Progestin interventions (PEPI) trial. JAMA 1997; 276: 1389— 1396
- Archer DF, Dorin MH, Heine W, Nanavati N, Arce J. Uterine bleeding in postmenopausal women on continuous therapy with estradiol and norethindrone acetate. Obstet Gynecol 1999; 94: 323—329
- 8. Ettinger B, Pressman A, Silver P. Effect of age on reasons for initiation and discontinuation of hormone replacement therapy. Menopause 1999; 6: 282—289
- 9. Eiken P, Kolthoff N. Compliance with long-term oral hormone replacement thrapy. Maturitas 1995; 22:97-103
- Björn I, Bäckström T. Drug related negative sideeffects is a common reason for poor compliance in hormone replacement therapy. Maturitas 1999; 32:77—86
- 11. *Dören M, Schneider HPG*. Long-term compliance of continuous combined estrogen and progestogen replacement in postmenopausal women. Maturitas 1996; 25:99—105
- 12. Goldman GA, Kaplan B, Leiserowitz DM, Pardo Y, Amater R, Fisch B. Compliance with hormone replacement therapy in postmenopausal women. A comparative study. Clin Exp Obst Gyn 1998; 25: 18—19
- 13. Karakoç B, Erenus M. Compliance considerations with hormone replacement therapy. Menopause 1998; 5:102-106
- 14. **石塚文平**. ホルモン補充療法のコツ. 産婦人科治療 1996; 73: 181—188
- 15. 米田直人,上村浩一,安井敏之,東敬次郎,苛原 稔,青野敏博. 更年期障害に対する女性ホルモン 補充療法における隔日投与法の有効性とコンプ ライアンスに関する検討. 日更年期誌 1996;4: 65-71
- 16. 曽田雅之,水沼英樹, 岡野浩哉,本庄滋一郎,松 井啓人,時沢俊也,青木一成,宮本純考,伊吹令 人.中高年女性に対するホルモン補充療法のコン プライアンスに対する検討. Osteoporosis Jpn 1995; 3:362—364

(No. 8131 平12·5·25受付,平12·9·11採用)